

小 菊 の 電 照 に よ る 作 期 拡 大 技 術

渡 辺 愛 美・高 橋 寿 一*

(岩手県農業研究センター・*岩手県立農業大学校)

Extension of Cropping Season on Small Type *Chrysanthemum* by Lighting

Manami WATANABE and Toshiichi TAKAHASHI*

(Iwate Agricultural Research Center・*Iwate Agricultural Junior College)

1 は じ め に

岩手県の小菊は品種の早晩生を利用して長期出荷体系をとっているが、開花期が気象の影響により変動することがあるため計画出荷が困難である。そこで、小菊の同一品種による長期継続出荷を体系化するため、夏秋タイプ小菊を用いて、ハウス、露地栽培での電照による開花制御について作期の拡大を検討した。

2 試 験 方 法

- (1) 試験場所 岩手県北上市 農業研究センター
- (2) 供試品種 '紅トンボ' 'はるか' 'みのる' 'やよい'
- (3) 試験区の構成は表1に示した。

表1 試験区の構成

試験区	定植日 (月/日)	電照期間* (週)	栽培場所
1	4/8	0	ハウス
2	"	4	"
3	"	6	"
4	4/27	0	露 地
5	"	6	"
6	5/18	0	"
7	"	6	"
8	5/28	0	"
9	"	6	"

* 1 電照期間：定植時から開始。21:00~2:00までの5時間の光中断による。

- (4) 試験規模 1区20株

- (5) 耕種概要

ア 親株管理 試験区1~3：1月15日から最低温度5℃で加温

〃 4~9：2月3日から2重被覆(内張り)による保温

イ 栽植様式 ハウス：畝幅160cm(床幅80cm)，株間15cm，条間15cm，中1条抜き4条植え

露 地：畝幅150cm(床幅70cm)，株間8cm，条間30cm，2条植え

ウ 施肥量 N,P,K 各10kg/10a

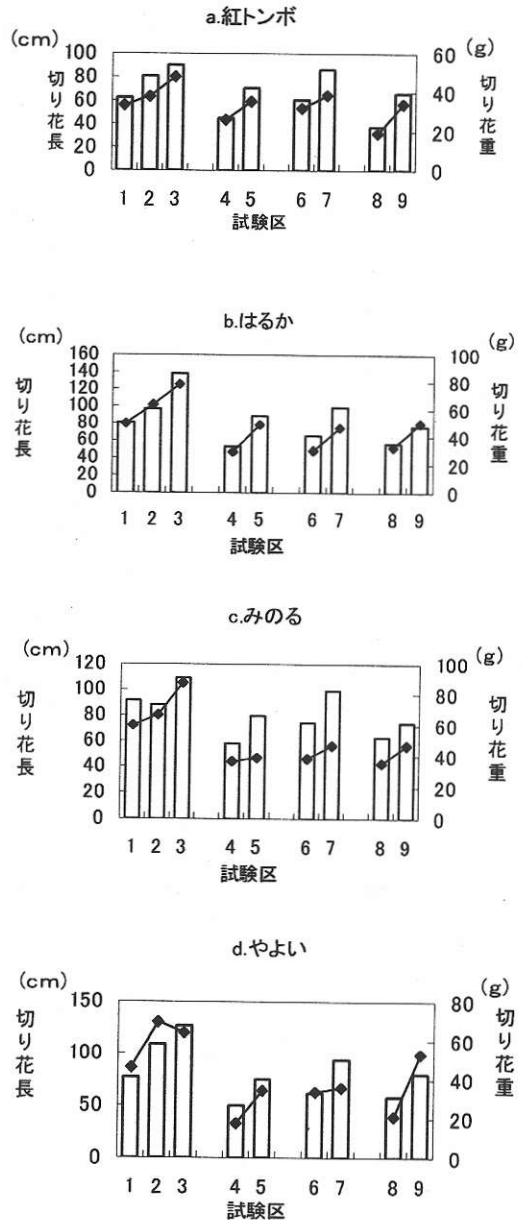


図1 切り花品質 (切り花長, 切り花重)

表 2 開花期と切り花品質

品種名	開花期(a) ^{*2} 切り花品質(b) ^{*3}	試 験 区								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
紅 ト ン ボ	a	6/21	6/29	7/5	7/21	7/28	7/26	8/6	8/1	8/13
	b	○	◎	◎	○	◎	×	◎	×	○
は る か	a	6/25	7/18	7/26	7/22	8/2	8/1	8/18	8/8	9/2
	b	◎	◎	◎	○	◎	×	◎	×	◎
み の る	a	7/18	7/15	8/4	7/25	8/2	8/3	8/12	8/13	8/25
	b	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎	○	◎
や よ い	a	7/5	7/26	7/30	7/30	8/2	8/2	8/18	8/12	8/24
	b	◎	◎	◎	○	◎	×	◎	×	◎

*2 開 花 期(a) 採花盛期

*3 切り花品質(b) ◎: 切り花長70cm以上かつ切り花重30g以上

○: 60cmかつ25g以上

×: 60cm未満又は25g未満

3 試験結果及び考察

(1) 各品種の切り花品質を図1に示した。電照区(2, 3, 5, 7, 9)は無電照区(1, 4, 6, 8)に比較し、いずれの作型も電照による効果が認められ、切り花長、切り花重が増加する傾向にあった。(図1)

(2) 開花期と切り花品質を表2に示した。本県の出荷規格はL(70cm), M(60cm)としている。本調査では(表2)切り花長と切り花重で品質を評価し、70cm以上かつ30g以上を◎, 60cm以上かつ25g以上を○, 60cm未満又は25g未満を×と表示した。

電照区(2, 3, 5, 7, 9)は、電照により品質向上が認められた。また、無電照でも試験区1や4は品質が良く、こういった出荷規格内の無電照区に電照区を組み合わせることにより、'紅トンボ'は6月下旬～8月中旬、'はるか'は6月下旬～9月上旬、'みのる'は7月中旬～8月下旬、'やよい'は7月上旬～8月下旬の採花が可能であった。

(3) 以上のことから、4月8日～5月28日定植の作型において、電照は切り花長、切り花重の増加への処理効果が認められ、切り花品質の向上に有効であり、品種によっては電照により6月下旬から8月下旬まで開花を延長させることが可能であった。

4 ま と め

4月8日, 4月27日, 5月18日, 5月28日定植の作型において、電照は切り花品質の向上に有効であった。今回用いた4品種の電照による開花延長期間は'紅トンボ'が53日、'はるか'が69日、'みのる'が38日、'やよい'が50日であった。

今後、これら夏秋タイプ小菊の開花期を電照により9月まで更に延長させることが可能か検討するとともに、電照が気象の影響による開花期の年次変動をどの程度コントロール可能か等、年次経過を調査していく必要がある。